

令和2年9月4日

小規模事業者景況調査報告書

(2020年1-6月期)

福島市商工会広域連携協議会

(飯坂町商工会・松川町商工会・飯野町商工会)

(本資料のお問合せ先)

福島市商工会広域連携協議会 (松川町商工会内)

電話：024-567-2265 / F A X：024-567-2364

調 査 概 要

1. 調査対象

この調査は、福島市商工会広域連携協議会（飯坂町商工会・松川町商工会・飯野町商工会）の小規模事業者の景況を調査したものである。

■対象企業数及び業種別内訳

・製造業	14社	
・建設業	15社	
・卸・小売業	17社	
・サービス業	19社	合計 65社

2. 調査対象期間

2020年1月～2020年6月期を対象とし、調査時点は2020年6月30日とした。

3. 調査方法

- (1) 福島市地区内商工会の職員による訪問面接等による調査
- (2) 各商工会の会員数を勘案して地区割りをを行い、調査対象企業の抽出は業種等有意選出方法による。

【本報告書で用いる用語の解説】

(1) 小規模事業者（小規模企業者）の定義

業 種	中小企業者 (下記のいずれかを満たすこと)		小規模企業者
	資本金の額又は 出資の総額	常時使用する 従業員の数	常時使用する 従業員の数
① 製造業、建設業、運送業	3億円以下	300人以下	20人以下
② その他の業種(②～④を除く)			
③ 卸売業	1億円以下	100人以下	5人以下
④ サービス業	5,000万円以下	100人以下	5人以下
⑤ 小売業	5,000万円以上	50人以下	5人以下

(2) DI(ディー・アイ)

Diffusion Index (ディフュージョン・インデックス) の略で、企業の景況を示すいくつかの指標をアンケート調査して、その判断を指数化したもの。

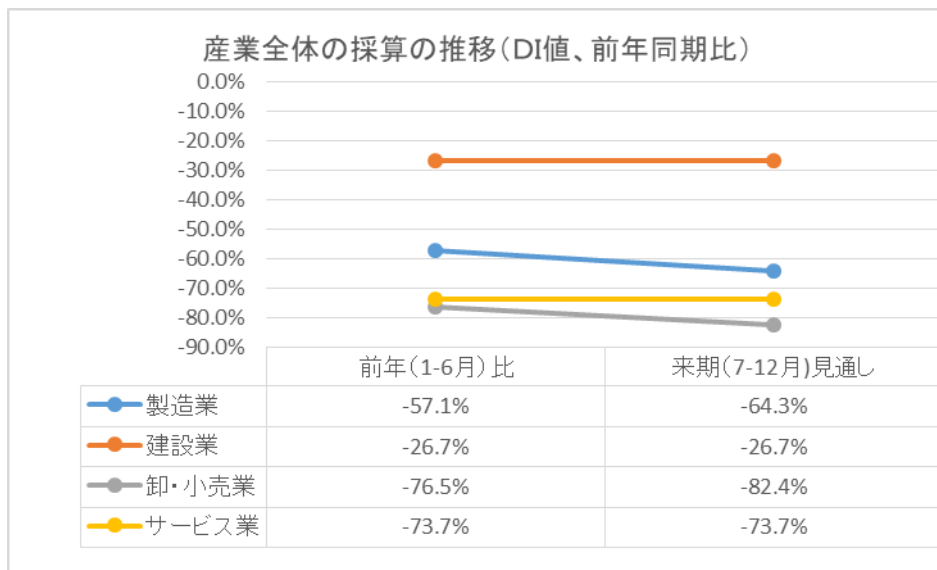
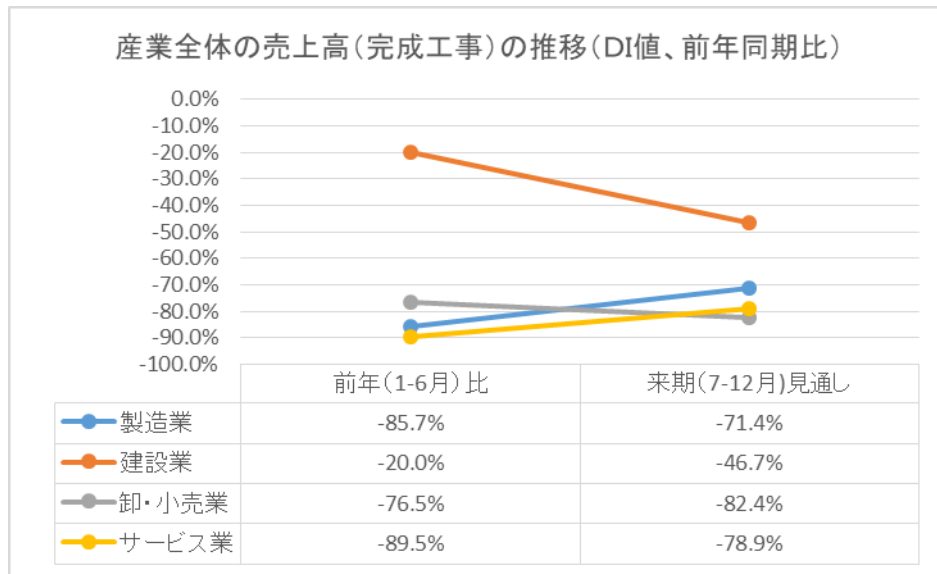
各判断項目について3個の選択肢を用い、選択肢毎の回答者数を単純計算し、増加(上昇・好転)の割合から減少(低下・悪化)の割合を差し引いた方法で算出している。

1. 産業全体の景況概要

福島市商工会地区における今期（2020年1月～6月期）の中小企業景況調査の結果によると、新型コロナウイルス感染症の影響により、売上額（完成工事額）では製造業△85.7%ポイント、建設業△20.0%ポイント、卸・小売業△76.5%ポイント、サービス業△89.5%ポイントとかなり厳しい景況感となった。

また、今期DI値と比較した来期（2020年7月～12月期）の見通しは、売上額（完成工事額）では、製造業（14.3%改善）、建設業（26.7%悪化）、卸・小売業（5.9%悪化）、サービス業（10.6%改善）と、2業種で多少持ち直しの見通しではあるが、全業種マイナスの見通しとなっており、新型コロナウイルス感染症の終息の見えない中、全業種とも先行きへの不安があり依然厳しい状況が続くと思われる。

採算においては、製造業（7.2%悪化）、卸・小売業（5.9%悪化）が悪化の見通しで、建設業、サービス業はほぼ現状維持の見通しとなっており、依然として厳しい状況である。



















県内全体と福島市商工会地区のお天気マークを比較すると、ともに売上状況においては建設業は雨であり、それ以外の業種は大雨の景況感となっている。

















また、採算においても、ともに建設業は雨であり、それ以外については来期まで大雨の見通しとなっている。

産業全体のお天気マーク（前年同期比）

■売上状況

	県内実績	福島市地区実績	県内見通し	福島市地区見通し
製 造 業	△80.0% 	△85.7% 	△88.0% 	△71.4% 
建 設 業	△27.1% 	△20.0% 	△32.5% 	△46.7% 
卸・小売業	△85.4% 	△76.5% 	△80.0% 	△82.4% 
サービス業	△83.4% 	△89.5 	△78.8% 	△78.9% 







■採算状況

	県内実績	福島市地区実績	県内見通し	福島市地区見通し
製 造 業	△66.0% 	△57.1% 	△72.0% 	△64.3% 
建 設 業	△35.1% 	△26.7% 	△37.8% 	△26.7% 
卸・小売業	△74.6% 	△76.5% 	△70.9% 	△82.4% 
サービス業	△78.5% 	△73.7% 	△66.1% 	△73.7% 

* 上記は、福島県商工会連合会が4月から6月を対象に実施した調査結果である。県内 50 企業を対象としており、県内の景気動向を知る指標となる。

<お天気マークの説明>

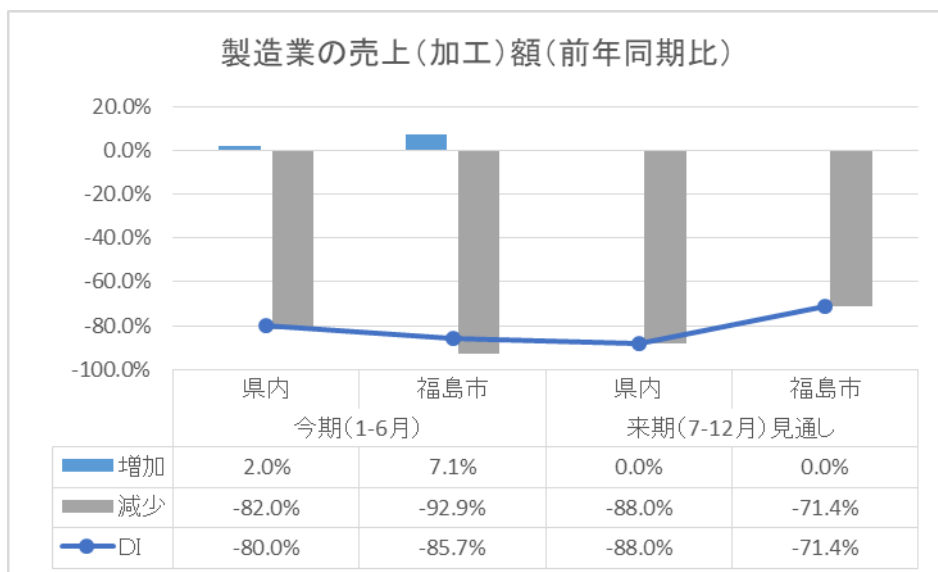
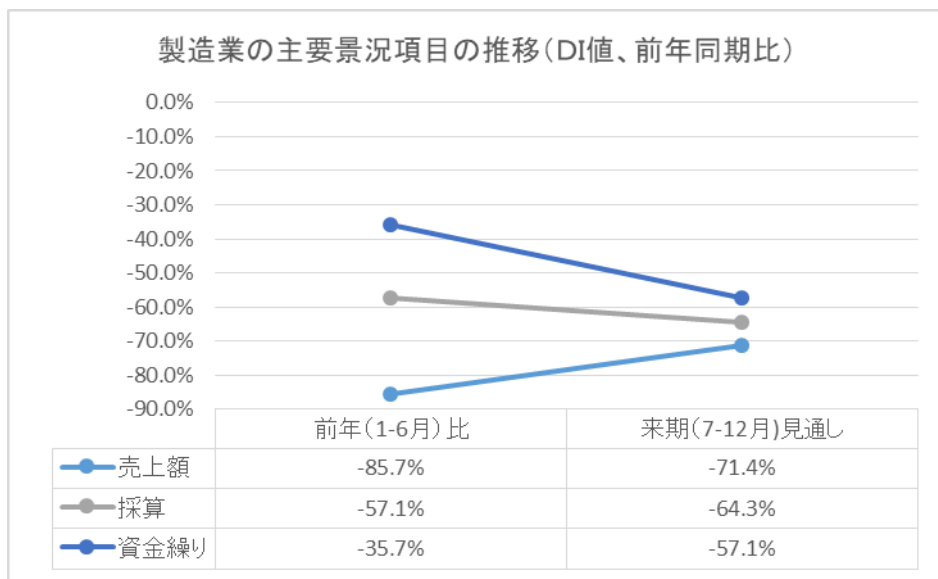
<マークは各指標のDI値を表す>

+15%以上	 晴	-5%~-14.9%	 小雨
+5%~+14.9%	 薄日	-15%~49.9%	 雨
±4.9%	 曇	-50%以下	 大雨

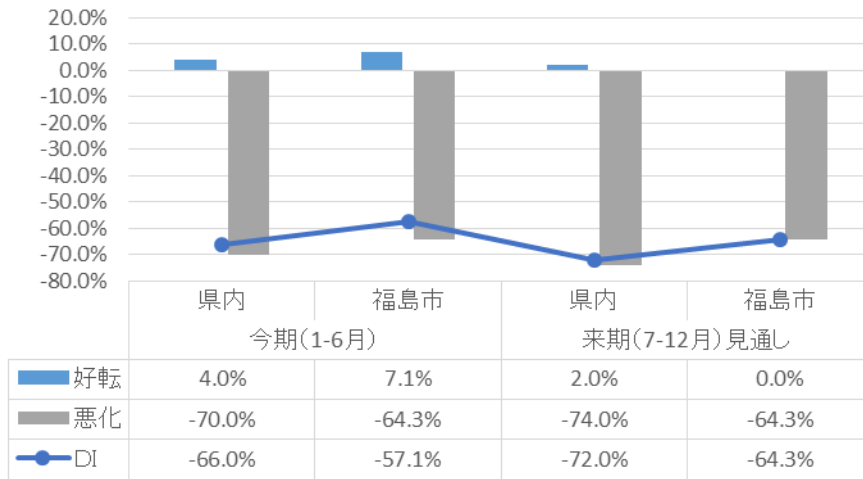
2. 製造業

今期（2020年1月～6月期）のD I値は、売上（加工）額△85.7%、採算△57.1%、資金繰り△35.7%の全てにおいて大幅な悪化となっている

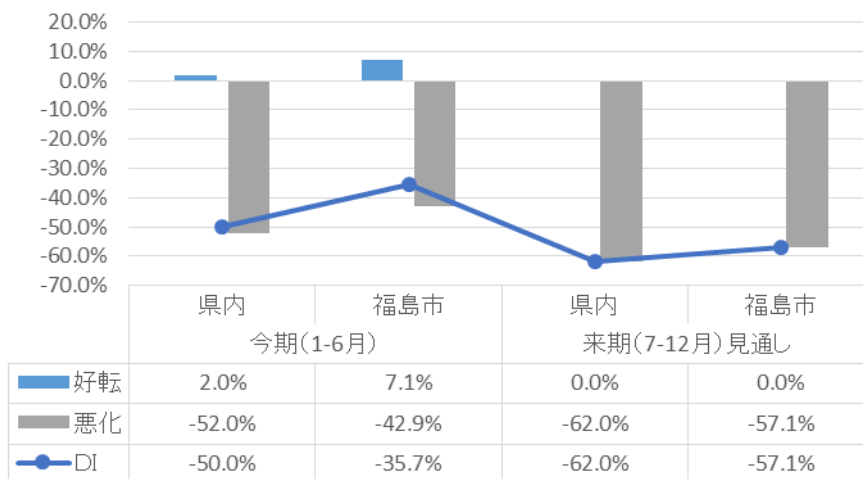
来期（2020年7月～12月期）の見通しD I値は、今期D I値と比較して、売上（加工）額△71.4%、（14.3%の改善）、採算△64.3%（7.2%の悪化）、資金繰り△57.1%（21.4%の悪化）とほぼ悪化の見通しとなっている。



製造業の採算の状況(前年同期比)

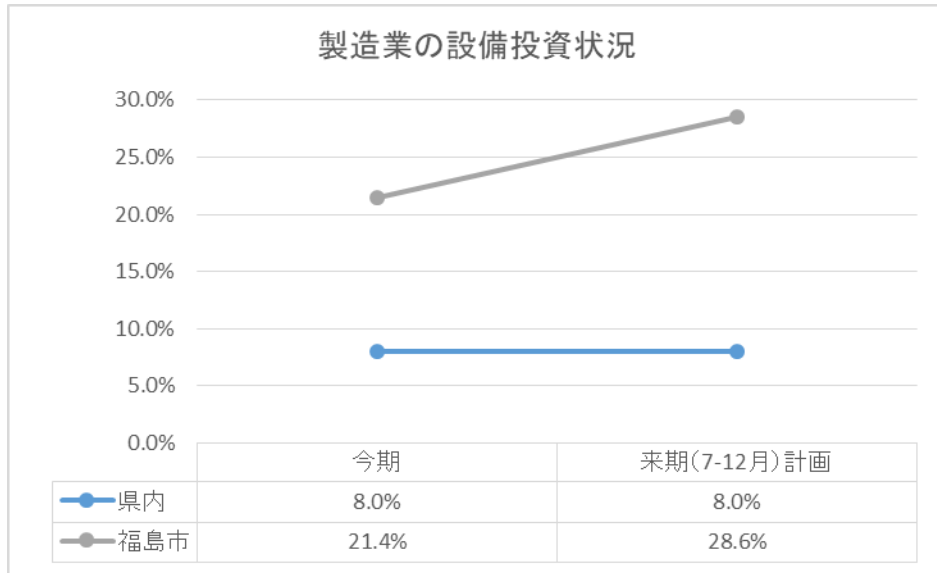


製造業の資金繰りの状況(前年同期比)



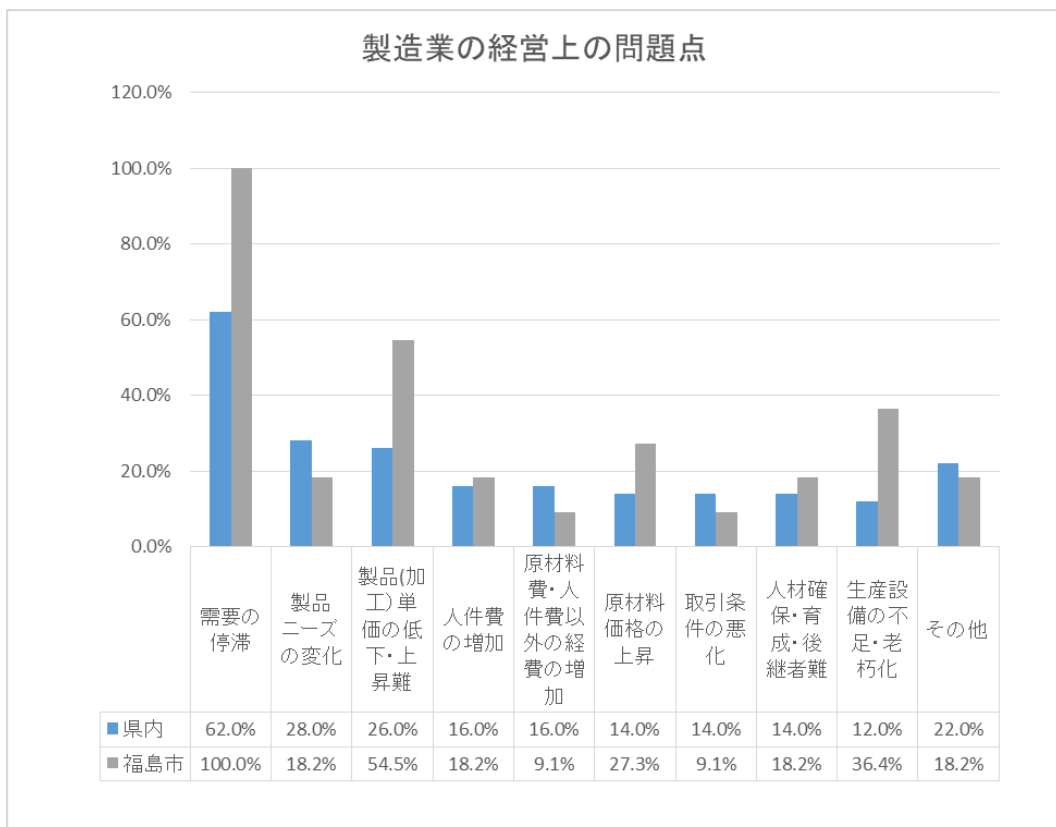
今期の設備投資企業は、21.4%（3社）となった。投資内容は、生産設備、付帯設備、OA機器となっている。

また、来期に設備投資を計画している企業28.6%（4社）であり、計画している投資内容は生産設備、付帯設備、OA機器となっている。



企業が第1位～3位までに挙げた問題点の合計は、「需要の停滞」が100%、「製品単価の低下・上昇難」が54.5%、「生産設備の不足・老朽化」が36.4%と高い数値となっている。

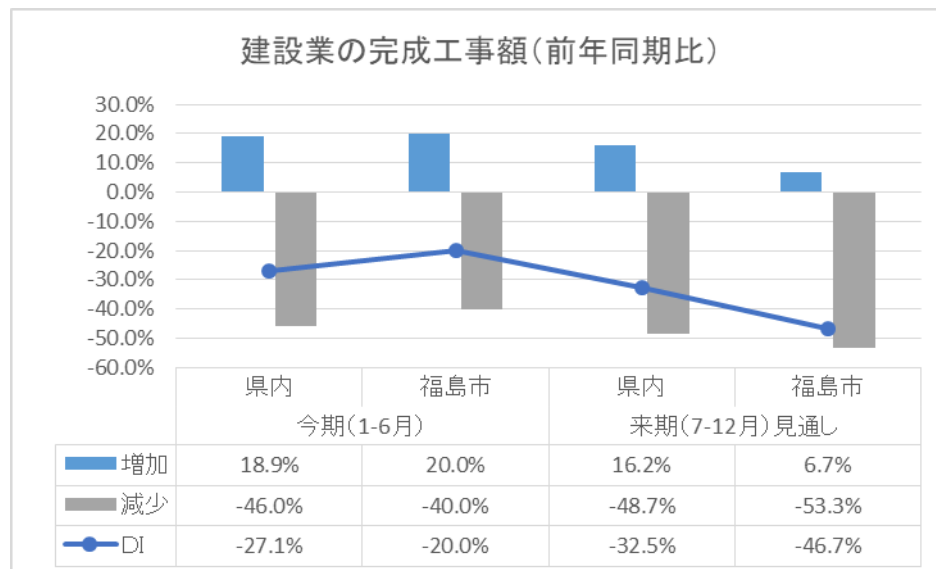
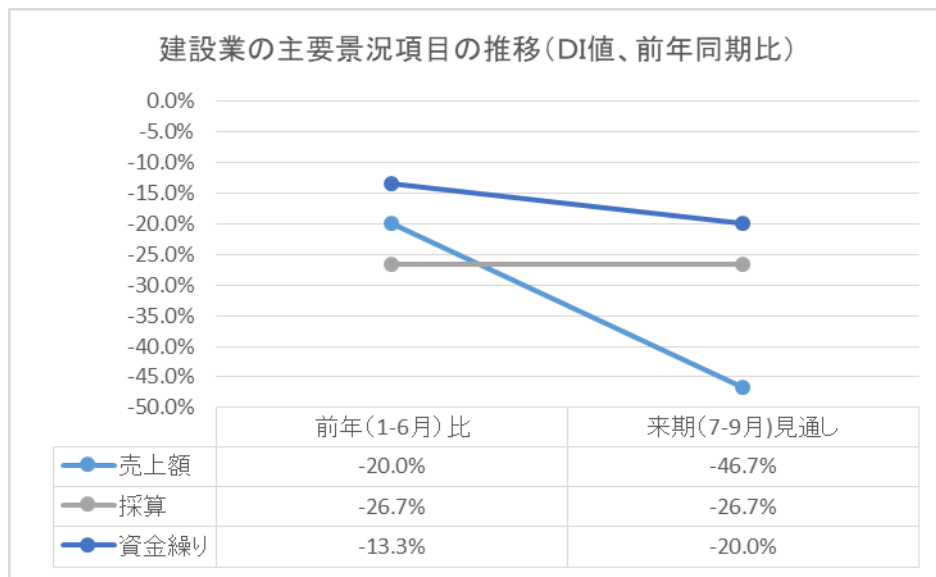
県内全体と比較すると、「生産設備の不足・老朽化」や「生産単価の低下・上昇難」、「原材料価格の上昇」が低い一方で、「原材料費・人件費以外の経費の増加」や「商品ニーズの変化」の課題を抱える割合が大きくなっている。



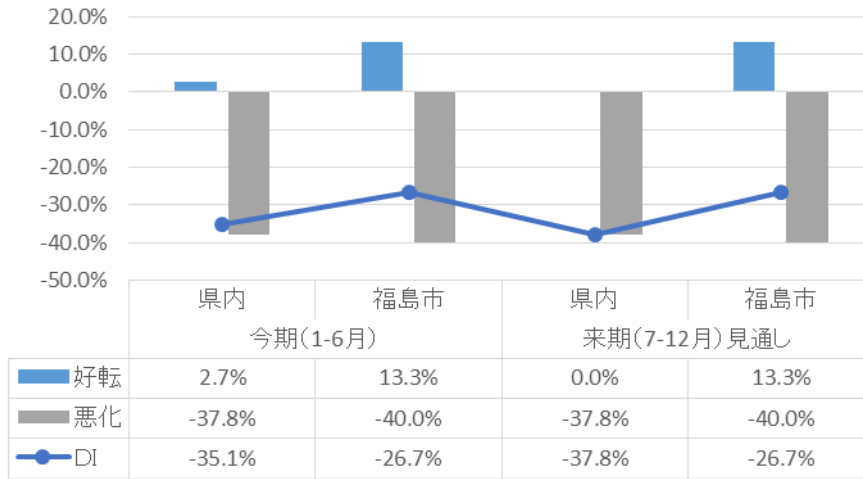
3. 建設業

今期（2020年1月～6月期）のDI値は、完成工事額△20.0%、採算△26.7%、資金繰り△13.3%と、全ての項目においてマイナスの値となっている。

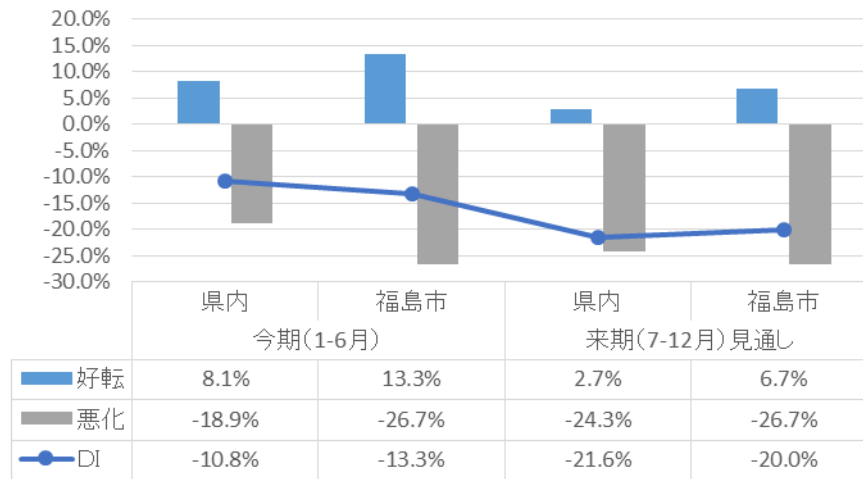
来期（2020年7月～12月期）の見通しDI値は、今期DI値と比較して、完成工事額△46.7%（26.7%の悪化）、採算△26.7%（変動なし）、資金繰り△20.0%（6.7%の悪化）と完成工事額は大きく悪化、採算は横ばいの見通しとなっている。



建設業の採算の状況(前年同期比)

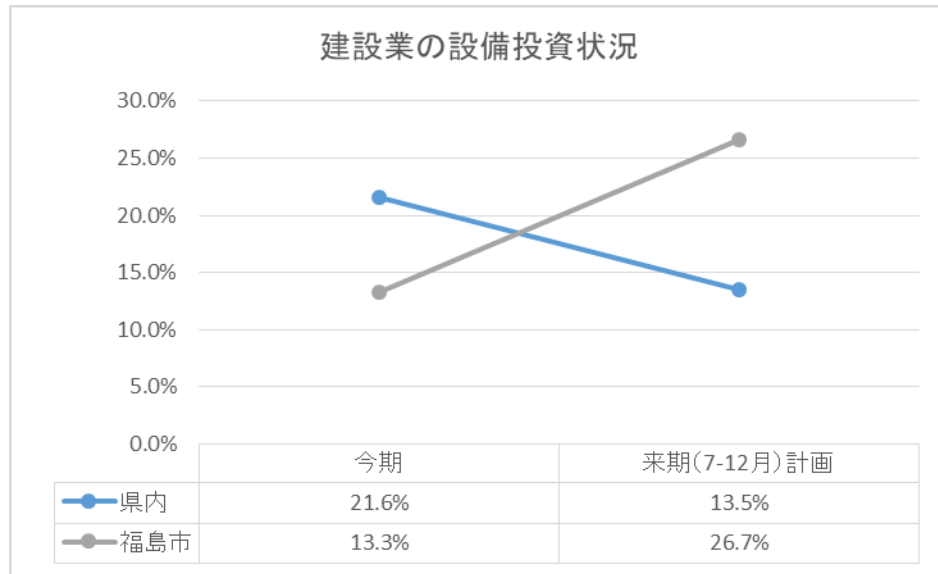


建設業の資金繰りの状況(前年同期比)



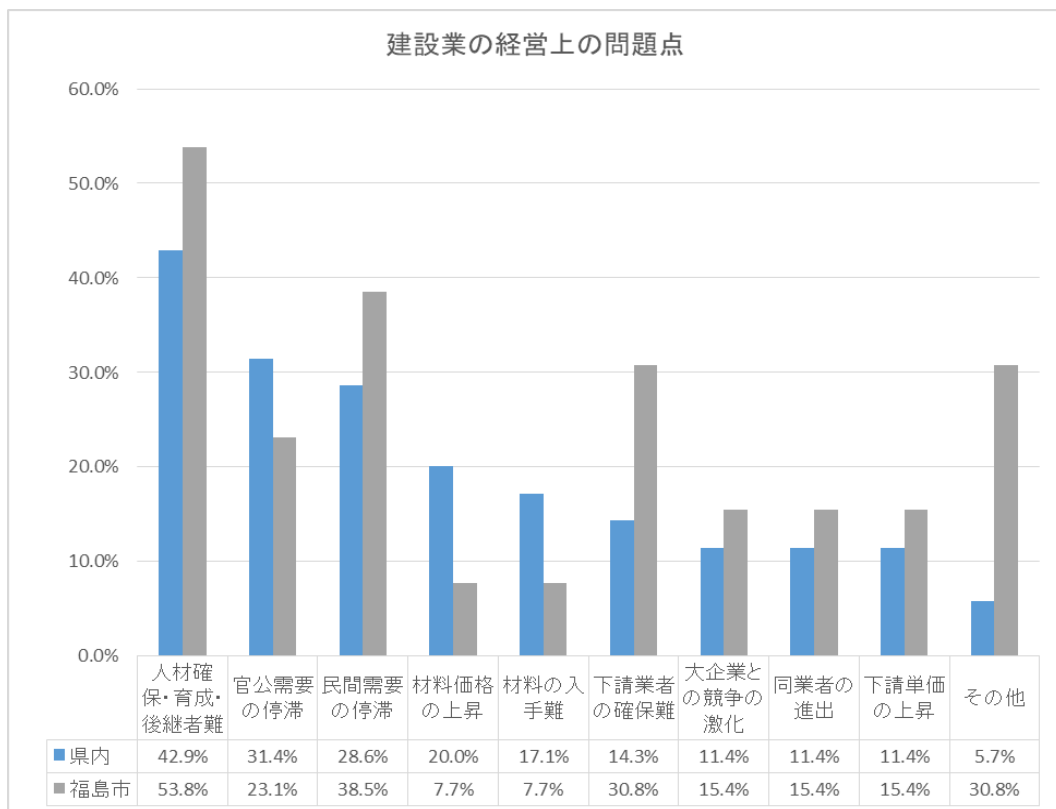
今期の設備投資実施企業は、13.3%（2社）となった。投資内容では、建設機械、車両運搬具、その他の導入となっている。

また、来期に設備投資を計画している企業は26.7%（4社）であり、今期実績から13.4%（2社）増加しており、計画している投資内容は車両運搬具、OA機器、その他となっている。



企業が第1位～3位まで挙げた問題点の合計は、「人材確保・育成・後継者難」が53.8%、「民間需要の停滞」が38.5%、「下請業者の確保」と「その他」がそれぞれ30.8%、「官公需要の停滞」が23.1%となっている。

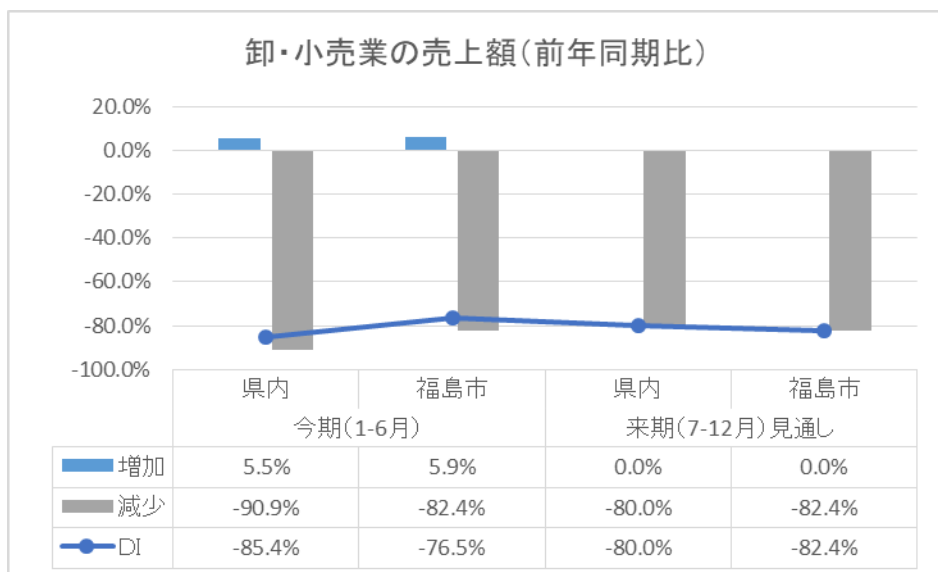
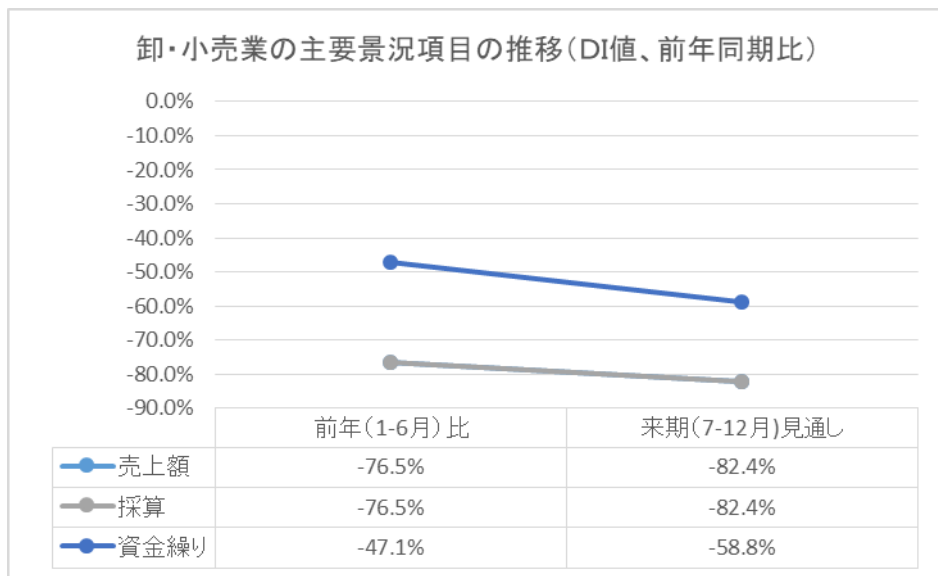
県内全体と比較すると、「材料の入手難」や「材料価格の上昇」が低い一方、「人材確保・育成・後継者難」や「民間需要の停滞」といった課題を抱える割合が大きくなっている。



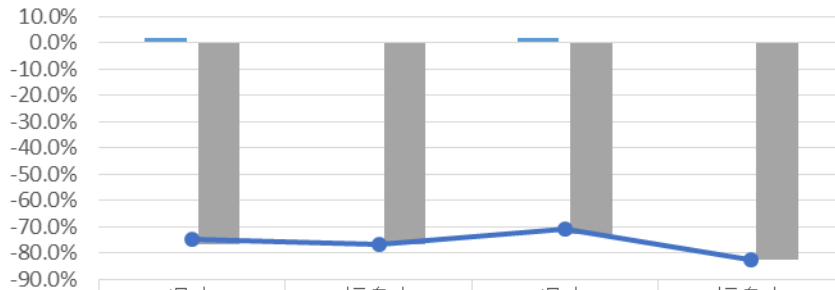
4. 卸・小売業

今期（2020年1月～6月期）のDI値は、売上高△76.5%、採算△76.5%、資金繰り△47.1%と、全ての項目においてマイナスの値となっている。

来期（2020年7月～12月期）の見通しDI値は、今期DI値と比較して、売上高△82.4%（5.9%の悪化）、採算△82.4%（5.9%の悪化）、資金繰り△58.8%（11.7%の悪化）と全ての項目で悪化の見通しとなっている。

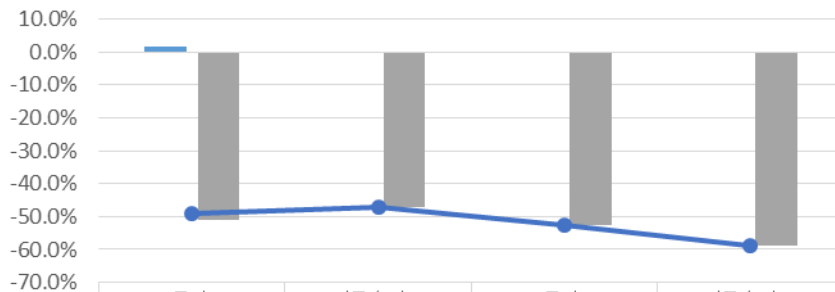


卸・小売業の採算の状況(前年同期比)



	県内 今期(1-6月)	福島市	県内 来期(7-12月)見通し	福島市
■ 好転	1.8%	0.0%	1.8%	0.0%
■ 悪化	-76.4%	-76.5%	-72.7%	-82.4%
● DI	-74.6%	-76.5%	-70.9%	-82.4%

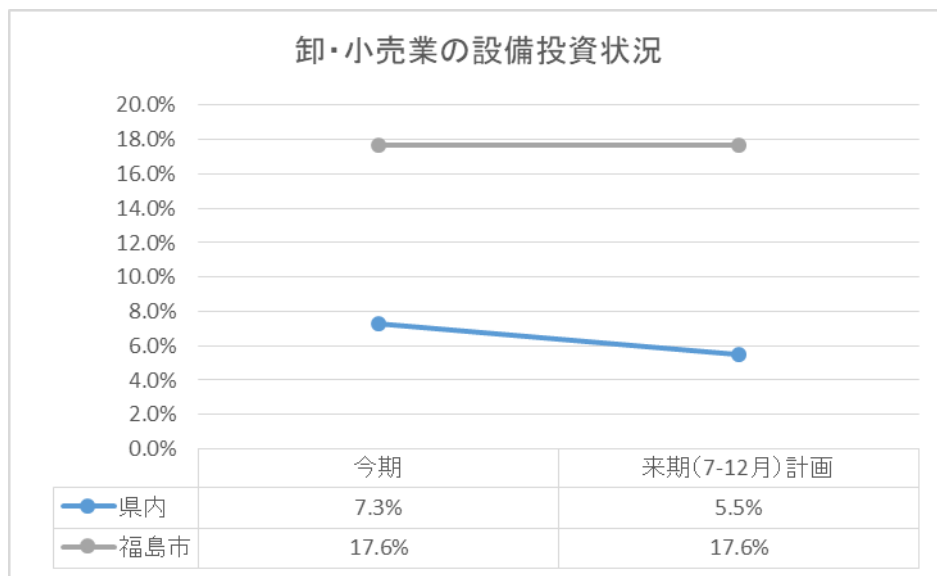
卸・小売業の資金繰りの状況(前年同期比)



	県内 今期(1-6月)	福島市	県内 来期(7-12月)見通し	福島市
■ 好転	1.8%	0.0%	0.0%	0.0%
■ 悪化	-50.9%	-47.1%	-52.7%	-58.8%
● DI	-49.1%	-47.1%	-52.7%	-58.8%

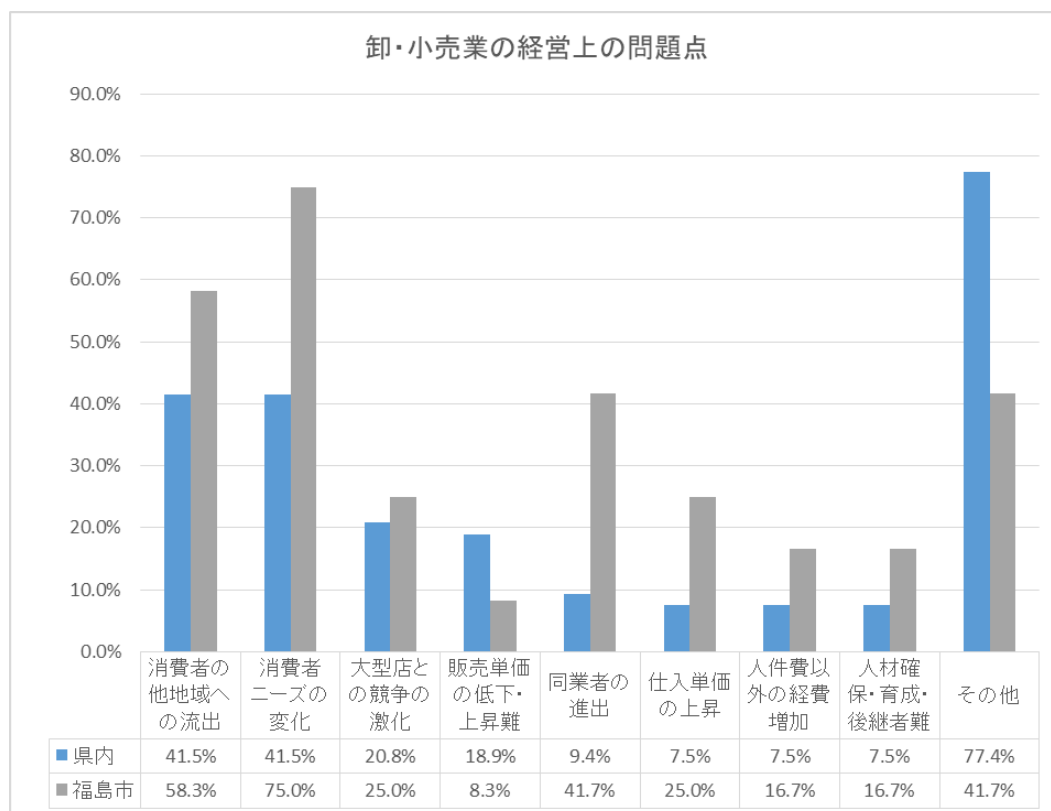
今期の設備投資実施企業は、17.6%（3社）となった。投資内容では、車両運搬具と付帯設備の導入となっている。

また、来期に設備投資を計画している企業は、17.6%（3社）であり、計画している投資内容は付帯設備とその他となっている。



企業が第1位～3位まで挙げた問題点の合計は、「消費者ニーズの変化」が75.0%、「消費者の他地域への流出」が58.3%、「同業者の進出」、「その他」がそれぞれ41.7%、「大型店との競争の激化」と「仕入単価の上昇」が25.0%となっている。

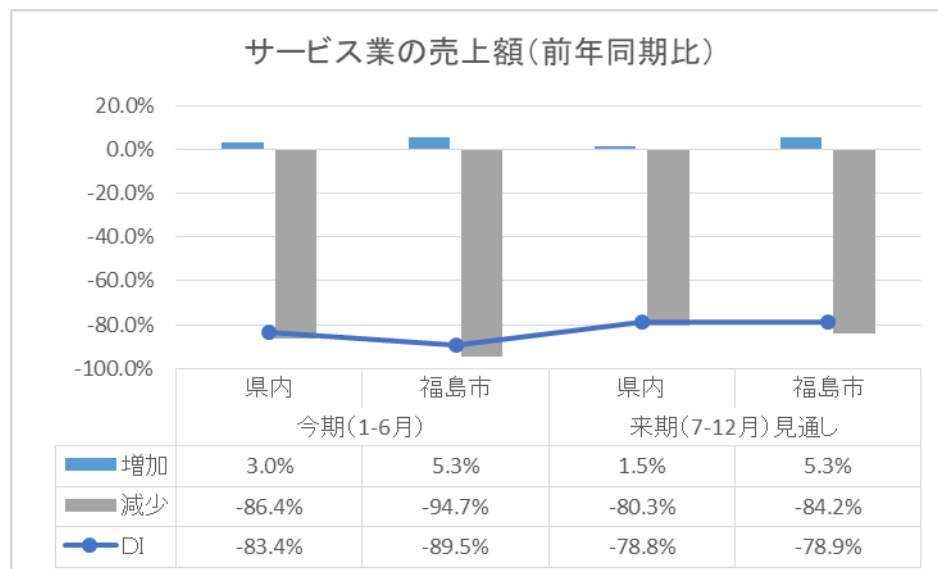
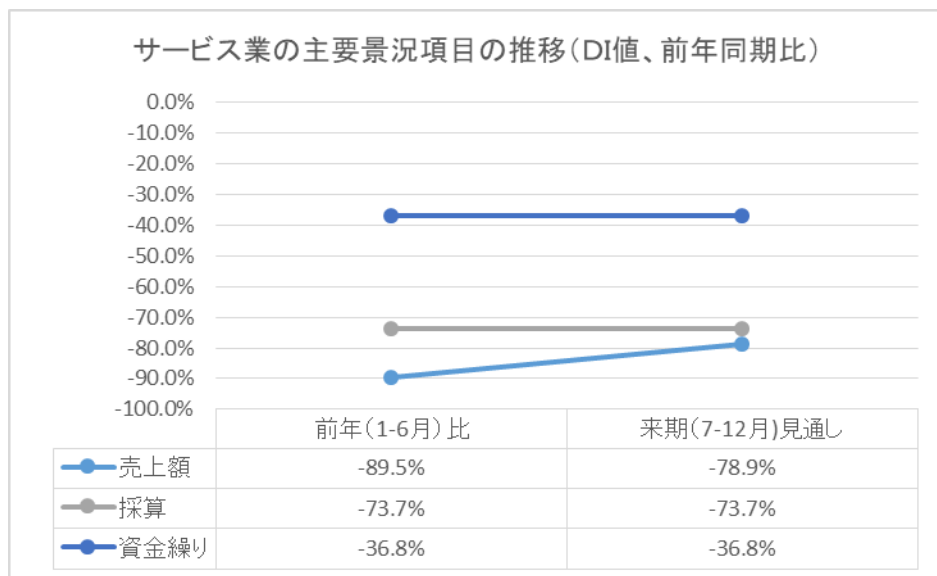
県内全体と比較すると、「販売単価の低下・上昇難」が低い一方、「消費者ニーズの変化」、「消費者の他地域への流出」、「同業者の進出」といった課題を抱える割合が大きい。



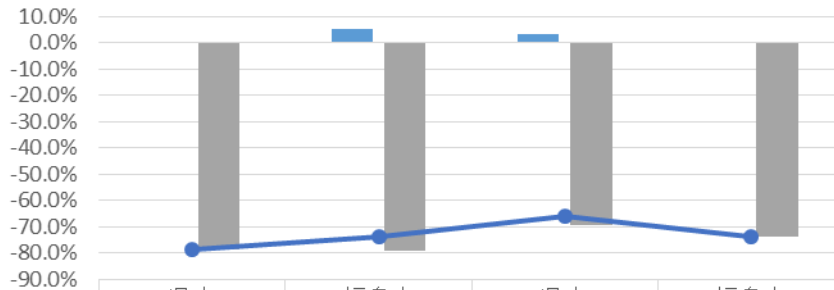
5. サービス業

今期(2020年1月～6月期)のD I値は、売上額△89.5%、採算△73.7%、資金繰り△36.8%の全てにおいて大幅な悪化となっている。

来期(2020年7月～12月期)の見通しD I値は、今期D I値と比較して、売上額△78.9%、(10.6%の改善)、採算△73.7% (不変)、資金繰り△36.8% (不変) とほぼ横ばいの見通しとなっている。

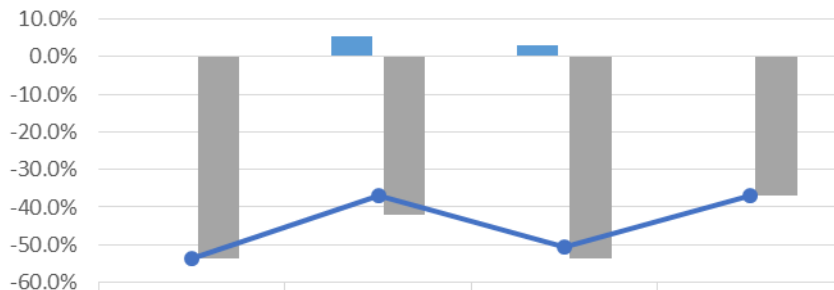


サービス業の採算の状況(前年同期比)



	県内 今期(1-6月)	福島市 今期(1-6月)	県内 来期(7-12月)見通し	福島市 来期(7-12月)見通し
■ 好転	0.0%	5.3%	3.1%	0.0%
■ 悪化	-78.5%	-78.9%	-69.2%	-73.7%
● DI	-78.5%	-73.7%	-66.1%	-73.7%

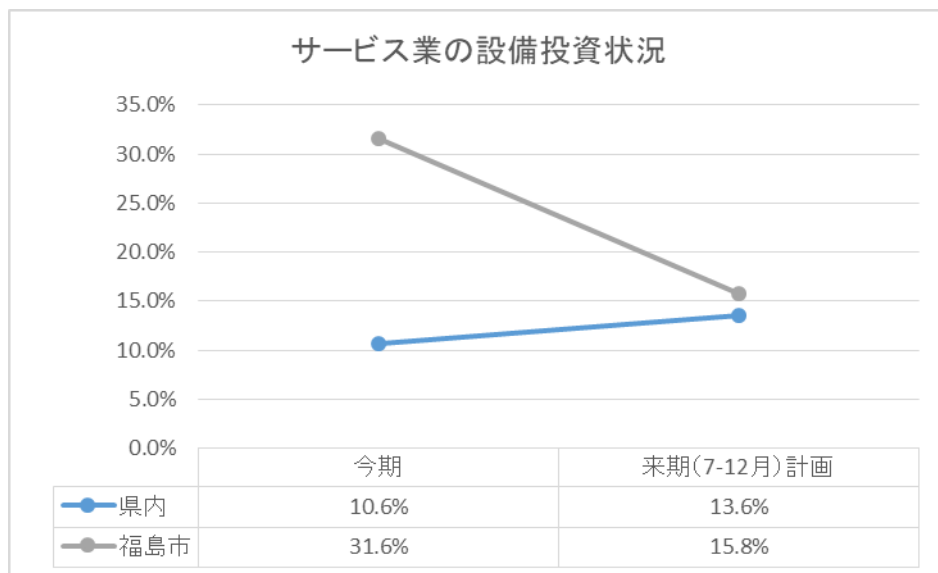
サービス業の資金繰りの状況(前年同期比)



	県内 今期(1-6月)	福島市 今期(1-6月)	県内 来期(7-12月)見通し	福島市 来期(7-12月)見通し
■ 好転	0.0%	5.3%	3.1%	0.0%
■ 悪化	-53.8%	-42.1%	-53.8%	-36.8%
● DI	-53.8%	-36.8%	-50.7%	-36.8%

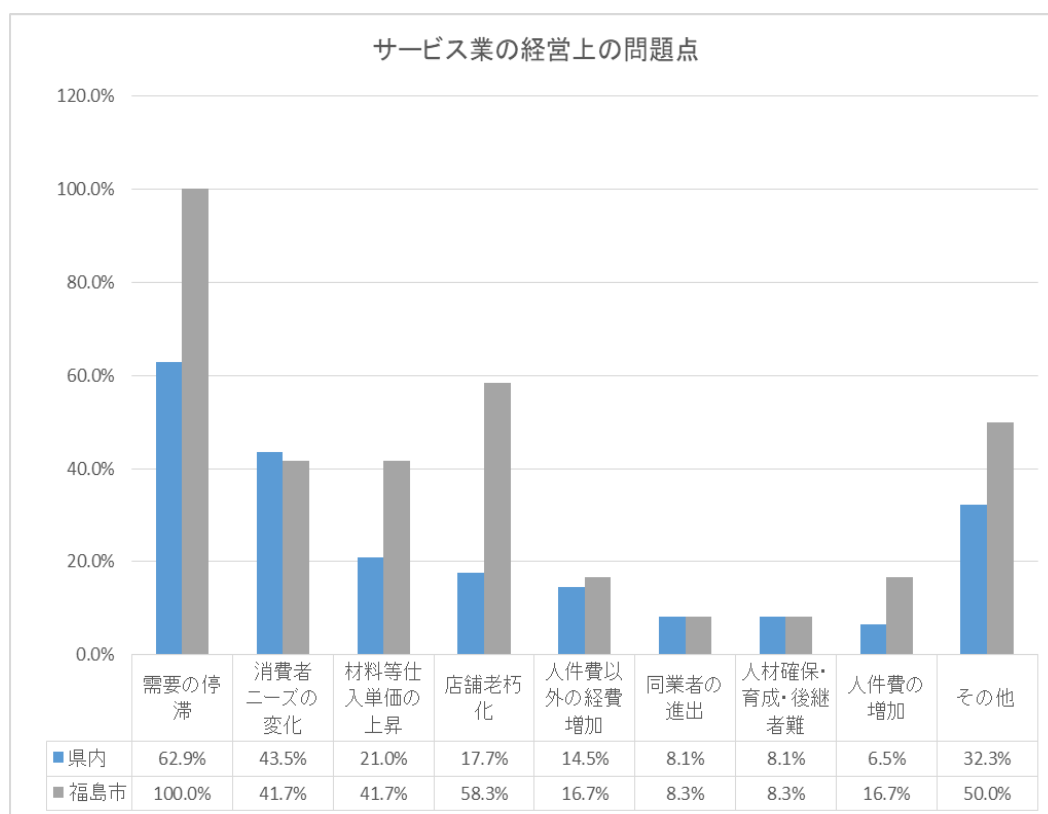
今期の設備投資企業は、31.6%（6社）となった。投資内容は、サービス設備、車両運搬具、その他となっている。

また、来期に設備投資を計画している企業15.8%（3社）であり、計画している投資内容は車両運搬具、OA機器、その他となっている。



企業が第1位～3位までに挙げた問題点の合計は、「需要の停滞」が100%、「店舗の老朽化」が58.3%、「消費者ニーズの変化」「材料等仕入単価の上昇」が41.7%と高い数値となっている。

県内全体と比較すると、「店舗の老朽化」「材料等仕入単価の上昇」が低い一方で、「消費者ニーズの変化」の課題を抱える割合が大きくなっている。



■業況判断の背景

●製造業

<前向きな意見>

- ・7月は若干のマイナスを見込む、8月は稼働日数の関係で売上は伸びない、本格的に回復するのは9月からと予想する。
- ・借入や持続化給付金で資金繰りは何とかなっているが、原材料価格が上昇したり、設備の老朽化等色々な問題はある。しかし、店は続けていきたい。
- ・今後は他の事業所が参入しづらい部門にも力を入れていきたい。

<厳しい意見>

- ・国内外の生産機械や物流機械を製造しており、コロナ禍により世界中での商談がストップしているため、影響は長引くと予想している。
- ・輸出の割合が高い業種なので、新型コロナウイルス感染症の今後の心配。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、売上は20%減、勤務時間の短縮、家族従業員のため、経営は踏み止まっている。原材料の小麦は値上がりし、米も天候次第では値上がる可能性がある。粗利の確保が課題。
- ・資金繰りも厳しくなってきたり、借入を検討している。

●建設業

<前向きな意見>

- ・リフォームを中心に行っている。営業しなくても施主からの依頼があり、自社での仕事は十分にある。営業をすれば仕事の量が増えるので、従業員がいないと大変になる。高齢化で廃業する事業所も多く、その分の仕事も来るので当分のリフォームの仕事は途切れなれないと思う。

<厳しい意見>

- ・新型コロナウイルス感染症の影響がこれほどまで経済動向に影響を及ぼすことになるとは思わなかった。持続化給付金の申請をした。先行き不安である。
- ・事業所内でも従業員の安全を守るため、マスク、消毒液の調達に追われ福利厚生費の出費が多かった。また、シートの設置等、環境を整えることも大変であった。
- ・新型コロナウイルス感染症により、施主の雇用環境が悪化し、工事の延期や契約した物件のキャンセルと影響が確実に出ている。
- ・取引先が、受注の減少による業績の悪化が続いたことに加え、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う倒産により売上が減少している。
- ・住宅の建設予定はたくさんあるが、トイレの部品が入らない等建設が進まない。
- ・新型コロナウイルス感染症により先行き不安なのか、改装工事・塗装工事を控えているように思える。

<その他>

- ・働き方改革による事務及び管理の経費増加や工程面での人材確保が予想されるので、人材育成や確保ができる環境となるまで受注を控えることになることが懸念される。

●卸・小売業

<前向きな意見>

・燃料（灯油・ガス）販売においては、新型コロナウイルス感染症の影響はあまりみられなかった。

<厳しい意見>

・新型コロナウイルス感染症の影響により、来店客の減少と集会がほとんどなくなってしまい、売上が下がってしまった。

・新型コロナウイルス感染症の影響により、観光客の減少及び地域の旅館の休業などで、旅館への売上が減少した。

・新型コロナウイルス感染症のワクチンが開発され、収束に向かうまで景気は冷え込むのではないか。

・昨年の台風被害や新型コロナウイルス感染症が景気に影響している。今後どうなるのか不安に感じる

●サービス業

<厳しい意見>

・新型コロナウイルス感染症の流行以降は、とにかく利用者が少なくなった。まわりの企業が元に戻らない限りサービス業の業況は良くならない。
















・町や人の高齢化がすすみ、人口が減少し、店を閉めるところが多くなっている。

・国、県の旅行喚起策により、個人旅行は徐々に増えつつあるが、団体旅行ははまだ回復の兆しが見えない状況が続いている。今後の感染状況、終息時期も不透明なため、旅行業界にとっては厳しいものがある。

・4～6月は、自動車の交通量が減っている。営業車を軽自動車にしている人が増えた。給油量も車検入庫回数も減っている。車の性能が良くなり、修理入庫が減っている。

他団体景気動向調査結果との比較検証

【全国商工会連合会実施の調査結果との比較】

	売 上		採 算	
	全国商工会連合会 実績	福島市地区 実績	全国商工会連合会 実績	福島市地区 実績
製 造 業	△80.7% 	△85.7% 	△74.9% 	△57.1% 
建 設 業	△67.5% 	△20.0% 	△63.1% 	△26.7% 
卸・小売業	△63.3% 	△76.5% 	△58.4% 	△76.5% 
サービス業	△79.1% 	△89.5 	△72.5% 	△73.7% 

* 上記は、全国商工会連合会が6月を対象に実施した調査結果である。全国の企業を対象としており、全国の景気動向を知る指標となる。

** 福島市内の状況 **

●製造業

福島市内の製造業者の中には、新型コロナウイルス感染症関係の商品の製造を開始し売上を確保している事業所もある。一方で、緊急事態宣言解除後も観光客が戻らないため、宿泊施設や外食産業へ納品している食料品製造業では厳しい状況が続いており、全国商工会連合会の見解と同じく、企業間で差が見られる。

●建設業

災害からの復興に勤しむ地域では、新型コロナウイルス感染症の影響下でも仕事がある。しかし、民需においては、調達が難しい部品もあり工期に遅れがでているが、全国商工会連合会実績よりは落ち込みが少ない状態である。新型コロナウイルス感染症の収束がみられない現在、投資をためらう動きがあることから、先行きへの不安がみられる。

●卸・小売業

特別定額給付金の支給が始まり、新型コロナウイルス感染症への不安もあるが、購買意欲の回復は見られる。しかし、宿泊施設への取引のある事業者や贈答品を取り扱う事業者においては回復が見られず、業種間で回復に差があり、全体的に厳しい状況である。

●サービス業

飲食業は、緊急事態宣言により営業自粛を行い、その後解除されたものの客足は戻って来ない。宿泊業を中心に観光関連の事業者では、宿泊助成などにより予約が増えつつあるが、回復には程遠いと思われる。新型コロナウイルス感染症の第2波の発生を心配する声もある。